

日本大学商学部校友会創立50周年 記念式典・祝賀会を開催



9月28日(土)、日本大学商学部校友会の創立50周年記念式典・祝賀会を開催。記念式典には林真理子日本大学理事長をはじめとしたご来賓が多数出席し、節目を祝った。

式典

ハイアットリージェンシー東京で開催された記念式典には、全国各地から校友や教職員、在学生など関係者136名が出席した。ご来賓として林真理子日本大学理事長、大貫進一郎日本大学学長、大谷喜一

日本大学校友会会長、長谷川勉商学部長、木崎孝之助商学部事務局長、吉原令子商学部長、そして山本裕二商学部校友会会長が登壇した。

式の冒頭では、日本大学校歌斉唱の後、今年元日に発生した能登半島地震をはじめとした災害に対す



来賓挨拶をした林真理子日本大学理事長(左上)、大貫進一郎日本大学学長(右上)、長谷川勉商学部長(左下)、大谷喜一日本大学校友会会長(右下)

る黙祷が捧げられた。山本裕二会長は挨拶の中で、過去50年間にわたり偉大な先輩方が築き上げてきた学生支援の取り組みに対する感謝の気持ちと、砧キャンパスへの恩返しを次世代に引き継ぎたいという思いを語った。

来賓挨拶では、長谷川学部長が、商学部校友会が50年にわたって続けてきた理由として、一人ひとりが名もなき仕事を担

る。続いて、林理事長は、商学部校友会が主催するイベント「歴史散歩」に言及し、自身が原作を手掛けた大河ドラマ「西郷どん」の主人公・西郷隆盛に関する地を巡る回があり、身近に感じたこと、また、校友会のメンバーと在学生が親しく交流する機会があることを



挨拶をした山本裕二日本大学商学部校友会会長

い、互いに支え合いながら繋がりを築いてきた点があると述べ

嬉しく思ったと話された。大貫学長、大谷校友会会長からもそれぞれ祝辞を賜った。式典の終盤では、商学部校友会から商学部への500万円の寄贈を行った。この寄贈金は、創立50周年を記念し、留学を目指す学生の支援に一部活用される予定。

日本大学商学部校友会 創立50周年記念事業

日本大学商学部校友会は1974年8月に正式発足し、2024年に創立50周年を迎えた。この節目を記念して、式典・祝賀会の開催、記念品の寄贈、さらに沿革や創成期メンバーの声をまとめた記念誌を制作。

もっと詳しく! 50周年記念式典のより詳しい記事は [日大商学部校友会 50周年記念](#) で検索

半になりまして、世界において、様々な変化がありまして、世界を見渡しますと、周知のとおり一般的な予想を超えた様々な出来事が生じています。まさに、不確実性の時代の真つただ中にいるといつてよいでしょう。かろうじて確率計算することのできるリスクと異なる、予想を超えた事態に備えることは難しいことです。

校友の皆様におかれましては、そうした変化に直接対峙している方もいらっしゃるかと推察されます。場合によっては困惑しているかもしれない。そこで、一つご提案したいことがございます。世界的に見ても、読書の時間が短い日本人ではあり

その時、小さな幸福感とこれからの道標を見つけられるのではないかと考えております。もっともお金のかからない本の旅に出るはいかがでしょう。皆様の多幸を祈念しております。

新たな50年は学生との交流を深め校友同志が楽しく生き生きと活動できる校友会活動を目指してまいります。校友の皆様におかれましては、学生支援を中心とした校友会活動にぜひ参加していただき、より一層校友会活動にお力添えをいただけます。今後の益々のご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。

2024年の後半になりまして、世界において、様々な変化がありまして、世界を見渡しますと、周知のとおり一般的な予想を超えた様々な出来事が生じています。まさに、不確実性の時代の真つただ中にいるといつてよいでしょう。かろうじて確率計算することのできるリスクと異なる、予想を超えた事態に備えることは難しいことです。

校友の皆様におかれましては、そうした変化に直接対峙している方もいらっしゃるかと推察されます。場合によっては困惑しているかもしれない。そこで、一つご提案したいことがございます。世界的に見ても、読書の時間が短い日本人ではあり

新たな50年の商学部校友会活動は先輩方が築き上げた業績をさらに発展すべく学生支援を中心に活動し母校の発展に貢献していきたいと思っております。本年度より海外留学を希望する学生に対して経済的支援(はばたけ!留学校友会)を新たに開始しました。海外渡航費の高騰により海外留学のコスト増に対応するものです。さらにキャリアデザイン講座に校友会から2人の役員を講師として派

新たな50年は学生との交流を深め校友同志が楽しく生き生きと活動できる校友会活動を目指してまいります。校友の皆様におかれましては、学生支援を中心とした校友会活動にぜひ参加していただき、より一層校友会活動にお力添えをいただけます。今後の益々のご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。



長谷川商学部長

予測不能な時代に、古典が照らす新たな視点

予測不能な時代に、古典が照らす新たな視点

2024年の後半になりまして、世界において、様々な変化がありまして、世界を見渡しますと、周知のとおり一般的な予想を超えた様々な出来事が生じています。まさに、不確実性の時代の真つただ中にいるといつてよいでしょう。かろうじて確率計算することのできるリスクと異なる、予想を超えた事態に備えることは難しいことです。



山本校友会長

新たな50年は、楽しく、生き生きを目指します

新たな50年は、楽しく、生き生きを目指します

日本大学商学部校友会は2024年令和6年(8月)に創立50周年を迎えることができました。本年9月に50周年記念式典が執り行われ、また50年間の校友会活動の歴史を編集し記念誌を上梓することができました。この記念誌は新たな50年の校友会活動の指針となると思っております。

従来の経済困窮者に対する校友会奨学金事業、国家試験取得支援、砧祭への支援、就職支援であるOGOB訪問、インゼミ大会の審査委員派遣等、引き続き学生支援活動をを行います。学生との交流は卒業生である校友自身も学生からエネルギーをいただきます。



発行所
日本大学商学部
校友会事務局
東京都世田谷区砧5-2-1
郵便番号 157-8570
日本大学商学部内
電話・FAX
03(3749)6720
発行責任者 山本 裕二

日本大学商学部校友会
創立50周年記念

50th

特設サイト公開中!

最新情報は
ホームページで
チェック!

商学部校友会 ホームページ



<https://nichidai-bus-kouyukai.com/>

- ▶ 校友会行事の最新情報
- ▶ ご連絡先の変更フォーム

随時更新中です!
是非ご覧ください。

日本大学の“今”を伝えるメディア

NU CATCH-UP

学びや教育、大学の取り組みや活動など、大学の最新情報を発信しています。



<https://www.nihon-u.ac.jp/catchup/>

日本大学 商学部

<https://www.bus.nihon-u.ac.jp>





校友の竹内康雄氏(旭食品(株)相談役)にご協力いただき「酔鯨」が鏡開きで用意された。写真左は周年事業に協力いただいた校友



挨拶をした西川豊和記念式典実行委員長、挨拶をした山本裕二商学部校友会会長、来賓挨拶をした武居弘市経済学部校友会会長、商学部准教授の金指崇先生がピアノでクラシックの名曲を披露



乾杯の発声は木崎孝之助商学部事務局長、挨拶をした大下一明商学部校友会副会長、若手幹事は校友会への参画について「恩返しをしたい」と語った

もっと詳しく! 50周年記念祝賀会のより詳しい記事は [日大商学部校友会 50周年記念](#) で 検索

祝賀会

校友会創立50周年を祝し 来賓・校友と鏡開き

記念式典と同日、祝賀会が開催された。来賓挨拶として、武居弘市経済学部校友会会長から「経済学部は元々商学部と兄弟学部であり、教育カリキュラムにも類似性がある。学部校友会ならではのミッションや学生支援をともに取り組んでいきたい」と祝辞を賜った。

創立50周年を祝した鏡開きには、周年記念事業にご協力いただいた校友と林理事長などご来賓の方々にご登壇いただいた。乾杯後は歓談となり、会場各所で積極的な交流がなされた。

日本大学商学部校友会創立50周年を祝って

創成期と同じ手づくりの温もりと 若い力の祝賀会で次の50年へ



会場では、記念撮影や名刺交換を通じて交流を深める姿がみられた

次の50年に向けた 未来への期待を 抱かせる会

今回の式典・祝賀会に向けて実行委員会は派手な演出に頼らず、50年を紡いでいくしつかりと足元を見た手づくりの会にこだわった。そのひとつとして、商学部の教員によるピアノ演奏が披露され、華やかな音色が会場を包んだ。また、21

名の若手校友会幹事がステージに集い、そこで校友会が実施しているOB・OG訪問イベントや歴史散歩などの活動が報告され、日本大学応援歌である「花の精髄」を力強く斉唱。手拍子とともに会場が盛り上がる中、山本会長は若手に「日本大学商学部校友会は永遠に不滅です!」と声をかけ激励した。最後は大下一明商学部校友会副会長が挨拶を行った。「今回のテーマである「次世代のバトンタッチ」には笑顔という意味も込められている。未来をつくるには前向きな気持ち・笑顔が必要。笑顔のパトンを含んで、そして学生にもつないでいこう」と話し、「日大に栄光あれ」と力強い一言で締めくくられた。

総額700万円を 奨学事業のために贈呈

令和6年度奨学金寄付の贈呈式が11月22日(金)、商学部長室にて実施された。商学部校友会の山本裕二会長から、長谷川勉商学部長に寄付目録が手渡された。今年度は、商学部奨学事業を支援する商学部奨学資金400万円、商学部学生の職業会計人資格取得に関わる奨励金を贈呈した。

奨学金寄付・資格取得支援

学生が元気に勉学へ 励むことのできる環境を



左上より、校友会の高橋幸子常任幹事、竹内達也副幹事長、西川豊和副会長、猿谷吉裕副会長幹事長、左下から、木崎孝之助商学部事務局長、山本裕二校友会会長、長谷川勉商学部長

目録を受け取った長谷川学部長は「去年から今年にかけて、円安により学生たちの海外留学が難しくなっている。現状を踏まえ、今年度の奨学資金の一部は海外渡航のサポートに活用したい」と謝意を述べた。山本会長は、「会長になるときに、ゼミの先生から『母校のためになる校友会にしてほしい』という言葉をいただいた。その言葉の意味をよく考えると、やはり現役の学生が元気に一生懸命研究し、そんな学生を支援することが母校の発展に繋がる。特に経済的困窮者や資格試験に挑戦する学生の負担を少しでも軽くしたいと今回の寄付を行った」と語った。贈呈式後、学部役教職員との意見交換会を行い、更なる商学部と商学部校友会の連携を確認した。

学生主体の学術大会 第50回インゼミ大会 「黎明」の本選を 12月8日(日)に開催

インゼミ大会

各ゼミナールが一堂に会し、日々のゼミでの研究成果に基づくプレゼンテーション・討論を披露するインゼミ大会、今年度は第50回を迎えた歴史をもつ伝統のある行事であり、12月8日(日)に本選が開催された。校友会審査員として下山慶太氏(平成元年度経営学科卒業)、大橋孝起氏(平成20年度会計学科卒業)、町田萌氏(平成26年度商業学科卒業)の3氏が務め、後輩たちのパッション溢れる研究発表を審査した。NSリーグ最優秀賞には岩田貴子ゼミ「B級グルメリー」M、教員審査賞には川野克典ゼミ「クアツドバスターズ」チームが受賞された。校友会賞を受賞した岩田貴子ゼミ「新作のむかしばなし」チームには賞状と盾が山本裕二会長より授与された。

令和6年度 商学部校友会事業計画

1. 学部との連携
① 学部執行部との定期的な意見交換会を実施
学部長、事務局長及び役教職員と定期的に会合を持ち、相互理解と協力関係を深める
2. 校友との絆
① 会報の発行
本年12月に会報を校友に送付
② ホームカミングデー協賛
令和6年11月3日(日)第29回ホームカミングデーに協賛
③ ホームページの充実・活用
3. 在学生への支援
① 経済的理由により学業の継続が困難な学生を対象として学部と選考の上、奨学金を支給
② 資格取得者への奨励金
資格取得者に対し、表彰及び奨励金の授与
③ 留学希望者への支援
「はばたけ!留学校友会」として、留学希望者への支援を行う
④ 学生団体との交流
学生団体との交流を図り、各種支援を行う
⑤ 卒業記念品の贈呈
卒業生に対して卒業記念品を贈る
4. その他
① 学部教職員、校友、在学生との交流会開催
② 商学部校友会50周年事業の準備 (2024年)

令和5年度 商学部校友会事業報告

- | | | | |
|---------|---|---------|---------------------------|
| 4月 1日 | 商学部新入生開講式 | 11月 18日 | 第8回歴史散歩開催 |
| 5月 17日 | 常任幹事会開催(決算常任幹事会) | 12月 17日 | 第49回インゼミ大会後援 |
| 6月 3日 | 令和5年度 総会・懇親会開催 | 12月 20日 | 校友会報第47号発行 |
| 7月 1日 | OBOG訪問イベント後援 | 1月 17日 | 令和5年度日本大学商学部校友会奨学生の採用及び懇談 |
| 7月 31日 | 校友会室移転(2号館5階) | 1月 25日 | 商学部役教職員と校友会役員の新年交歓会 |
| 10月 28日 | 第28回ホームカミングデー開催(対面) | 3月 25日 | 令和5年度資格等取得奨励生への表彰 |
| 11月 9日 | 校友会奨学金関係寄付(4,000,000円)
資格取得奨励金寄付(3,000,000円) | | |



「思うより行動」を信念としてきた姿勢があります。元々はシャイな性格だった私ですが、大学時

この実現の背景には、「思うより行動」を信念としてきた姿勢があります。元々はシャイな性格だった私ですが、大学時



GINZA SIXに東京ブランド「甚五郎」を構える。



栃木県日光市に本店を構え、銘菓・日光甚五郎煎餅で有名な老舗「石田屋」。近年、都内に新ブランドを展開。その狙いを仕掛け人である商業学科卒業の石田雅一氏に伺いました。

“思うより行動”の信念が実を結ぶ 日光銘菓を東京へ

商業学科 2000年卒業 日光甚五郎煎餅「石田屋」常務取締役 石田 雅一 氏

【石田氏の略歴】

大学卒業後は飲料メーカーやIT企業、議員の運転手などを経験。お笑いコンビ・トレンディエンジェルの斎藤司さんは、ゼミの同期で親友。

株式会社 石田屋

〒321-1434 栃木県日光市本町 4-18

TEL : 0120-25-1195

URL : http://www.jingorou.com



▲「匠美」は東京ブランドの看板商品。手土産に最適な洗練された一品。

代に居酒屋でアルバイトをする中で、人と話すことの楽しさを実感。その後は長期休暇を活用してバックパッカーとして海外を巡り、卒業後も実家に戻るまで多様な仕事を体験しました。家業に携わるようになってからも、各地を訪れて多くの人々と話し、信頼関係を築いてきました。この経験が今の成果につながっていると感じています。

もっと詳しく! OB・OGインタビューのより詳しい記事は [日大商学部校友会 OB・OG](#) で [検索](#)

商学部 OBOG訪問イベント

就職活動のアドバイスを 社会人として在學生へ



和やかな雰囲気の中、就職活動について在學生と語り合う若手幹事

本年度も商学部就職指導課との共催により、OBOG訪問イベントが、10月26日(土)に開催された。校友会の若手幹事6名が、在學生が社会人の卒業生と対話することで、これからの就職活動に自信を持って取り組むことができるようになる機会を提供した。担当した山口莉佳さん(平成29年度会計学科卒)から「OBOG訪問で在學生と対話する

校友会幹事がOBOGとして在學生を支援

在學生の就職活動・キャリアデザインを応援

間には、就職活動を始めたころから就職後の今までの経験を棚卸する時間にもなり、私たち卒業生にとっても刺激を受ける半日だった。在學生には、色々な卒業生との対話を通して、自分の近い将来のイメージを膨らませて欲しいと願います。今後この企画が続いていけたら良いと思います」とのコメントがあった。商学部校友会は今後も、在學生支援を実施していく。

プロジェクト研究 キャリアデザイン特別講座

経験談を通して社会人としての 心構えを伝える



失敗の乗り越え方を語る小林氏

11月20日(水)、27日(水)の2日間、「キャリアデザイン特別講座」において、校友会常任幹事の塩野忠氏(昭和59年度商業学科卒)と小林聡太郎氏(平成3年度経営学科卒)の2名が講義を行った。両日とも約100名の在學生に向けて「在學生時代」「就活」「社会人としての体験」「在學生へのアドバイス」について、自身の経験談を中



商学部時代や就職活動、働き始めてからの経験について語る塩野氏

心に講義を行った。講義後の質疑応答では多数質問があり、積極的に講義に参加している様子がうかがえた。「社会人としての心構えができた」「色々なことに挑戦していきたい」等の感想もよせられ、在學生に社会人の生の声を伝えることができ有意義な時間となった。

校友会からは毎年 砦祭支援金で開催支援が11月3日(日)・4日(月・祝)に開催された。第53回のテーマは



第53回 砦祭

テーマは「Fly」より多くの方に喜んでいただける企画を

「Fly」。昨年度から更なる飛躍をめざして規模を拡大し、より多くの方々に楽しんでいただきたいと思います。実際に前年よりも多く

の模擬店が出店し、賑わいをみせていた。商学部校友会からは学生支援の一環として、毎年砦祭支援金を贈呈しており、開

祭式では山本裕二会長から成山稔人砦祭実行委員長に目録が手渡された。校内では、ゼ



▲山本裕二校友会会長と成山稔人砦祭実行委員長

ミナールや団体による企画展示が実施され、小島ゼミでは「災害食」の研究成果の発表や、災害食商品を販売していた。そのほか、女子サッカークラブ「スフィード世田谷FC」とコラボしたイベントや、地域の方々が参加するフリーマーケットなど多彩な企画が行われた。



長谷川勉商学部長 高橋史安元商学部長

商学部の恩師に想いを馳せて ホームカミングデー

商学部ホームカミングデーが開催され、「教員」をテーマにしたトークセッションと懇親会を通じ、校友が母校との絆を一層深めました。



山本裕二校友会会長

元現学部長が語る 商学部の「教員」 令和6年11月3日(日)、日本大学商学部ホームカミングデーが開催された。第一部では最初に山本裕二商学部校友会会長が挨拶を行い、創立50周年を迎えた商学部校友会の活動を紹介した。トークセッションでは、「商学部の過



去、現在、未来を語る(教員編)」というテーマの下、高橋史安元商学部長、長谷川勉商学部長、司会として遠藤幸一ホームカミングデー実行委員長が登壇。商学部の歴代教員についてエピソードを語り合い、当時を懐かしんだ。商学部の未来についても、母校に誇りを持つてる大学にすべく意見が交わされた。

母校に帰り 校友と交流を深める 第二部の懇親会では、トークセッションで語りきれなかった教員との思い出話に花を咲かせる場面や、名刺を交換し合い、交流を深める校友たちの姿がみられた。恒例の福引抽選会も盛り上がりを見せ、校友からの協賛品や豪華景品に歓声があがっていた。

もっと詳しく! ホームカミングデーのより詳しい記事は [日大商学部校友会 ホームカミングデー](#) で [検索](#)



写真右=表彰式の北口選手、写真左=木村選手(左)と富田選手(共同通信提供)

8月11日までフランスで行われたパリオリンピックで本学や付属校の在籍者、卒業生らが活躍した。女子やり投げの北口選手(令和2年スポーツ科学卒)が日本女子の陸上トラックワールド競技で初の金メダルに輝き、フェンシング男子エペ団体で山田優選手(平成29年文理卒)が、柔道混合団体では素根輝選手(スポーツ科学4年)がそれぞれ銀メダルを獲得した。

北口選手が金メダル パラは木村選手2冠

パリ五輪

第33回オリンピック・パラリンピック競技大会(2024/パリ) 本学関係役員・選手一覧

令和6年7月10日現在

競技名	選手役職	種目・ポジション	氏名	学部等	学年卒業年度
陸上競技	選手	女子やり投げ	北口 優花	スポーツ科学部	令和元年
	選手	男子走り幅跳び	橋岡 優輝	スポーツ科学部	令和2年
陸上競技(パラリンピック)	選手	F12クラスやり投げ	若生 裕太	文理学部	令和元年
	選手	男子200mバタフライ	寺門 弦輝	スポーツ科学部	4年
水泳/競泳	選手	男子200mバタフライ	本多 灯	スポーツ科学部	令和2年
		男子リレー(自由形)	柳本 幸之介	スポーツ科学部	3年
		男子リレー(自由形)	興野 秀成	スポーツ科学部	令和4年
		女子100mバタフライ	池江 璃花子	スポーツ科学部	令和4年
		女子リレー(自由形)	小堀 優加	スポーツ科学部	令和4年
		女子100mバタフライ	平井 瑞希	藤沢高校	3年
水泳/競泳(パラリンピック)	選手	100mバタフライ/S11	元島 清香	医学部	平成8年
		100mバタフライ/S11	木村 敬一	文学研究科	平成26年
柔道	選手	女子78kg超級	富田 宇宙	文理学部	平成23年
卓球(パラリンピック)	選手	クラス4	森根 輝	スポーツ科学部	4年
馬術/総合馬術	選手	男子オムニウム	七野 一輝	商学部	令和2年
自転車/トラック	選手	男子オムニウム	小川 登美夫	生物資源科学部	平成11年
		男子マディソン	蓮木 一茂	文理学部	平成23年
技術スタッフ	技術スタッフ	男子チーム/パシュート	早川 裕紀	商学部	令和元年
		男子チーム/パシュート	早川 裕紀	商学部	令和元年

出典元:日大広報第815号

にそれぞれ入賞した。平井選手は個人でも女子バタフライ100mで決勝に進み、7位だった。自転車トラック複合競技のオムニウムでは蓮木一茂選手(平成24年文理卒)が6位入賞、長谷川唯選手(平成31年文理卒)が出場した女子サッカーは5位、スケートボード女子パークの草木ひなの選手(土浦日大高1年)は8位だった。

日本大学商学部は、商学部社会連携センターを設置し、その一つとして「あきない塾」を開催しています。6月16日(日)に「ゲームで学ぶ会計学」を開催。会計学と経営学の基礎を「経営シミュレーションゲーム」を通じて学びました。続いて11月9日(土)には「初心者のための資産形成講座」を開催。資産形成をはじめるときに気をつけることを説明した後、参加者は「資産形成のシミュレーション」を体験しました。来年1月25日(土)には「初心者のための小さなD



初心者のための資産形成講座

商学部社会連携センターからのお知らせ

学びたい社会人に向けた 生涯学習の場

～様々な講座が学べます～

「X講座」を予定しています。また、毎年秋に開催する公開講演会では、地域と日本大学の共生を目指し、開かれた大学として知識を広く社会に還元しています。今後も様々な企画を予定していますので、商学部校友会ホームページでご確認ください。多くの校友の皆様のご参加をお待ちしています。



写真はゲームで学ぶ会計学

恒例となっている商学部校友会ゴルフ大会が10月19日(土)、武蔵野ゴルフクラブで行われた。19回目を迎えた今回は、一時的に30度超える最も暑い夏日となったが、一日を通じては良いゴルフ日和となった。その中で現役学生2名(ゴルフ同好



第19回 校友会ゴルフ大会を開催

ゴルフ同好会所属の現役学生2名が参加



会所属)を含む12名が優勝及び各賞とデビューを目指し争った。優勝は高橋史安元(現役学生の水谷虎志郎君)となった。プレー後の懇親会では各賞の表彰及びコメントとともに互いのプレーを称え合い来年の再会を誓い合った。



日頃は歩くことが少ない下町散歩にワクワク



講師として案内していただいた秋山修先生と関一成先生

外国人で賑わう浅草寺は江戸初期の史跡も浅草寺では混雑を避け、雷門ではなく国の重要文化財である二天門(1618年建立)から入場。海外

からの観光客で賑わう境内を進む中、「外国人は浅草を訪れるとう感じているんだろう」と思いを巡らす参加者もいた。境内では浅草神社や六地藏石灯籠、迷子しるべ石などを見学し、散歩は終了となった。下町である浅草橋・蔵前から人であふれかえる浅草寺まで、先生方の軽妙な歴史話を楽しみながら、今年も在学生や校友が交流を深めた企画となった。



浅草神社の前で集合写真。第1回から参加する常連から在学生まで幅広い世代が参加

江戸時代も現在も 人々であふれかえる浅草を歩く

要所浅草見附跡から下町に残る寺社を巡る

つ秋山修先生と関一成先生を講師に迎え、浅草の奥深い歴史の名所を辿った。

江戸城外郭門が設置された浅草見附跡から出発し、鳥越神社や天文台跡、蔵前神社などを巡り歩いた。葵紋が徳川にゆかりのあることを示す西

福寺では、浮世絵師勝川春章、家康の側室於竹の方、幕末期に明治新政府軍と戦った彰義隊の墓を訪問。歴史散歩でお墓を訪れることが多い理由として先生は、その人が実在していたことを証明する場所だからだと解説し、参加者の興味を引いた。



浅草寺の五重塔は本堂の東側に建てられていたが、東京大空襲で焼失後、西側に再建された

もっと詳しく! 「歴史散歩」の当日の様子や写真は、 [日大商学部校友会 歴史散歩](https://nichidai-bus-kouyukai.com/) で 🔍 検索